

認定特定非営利活動法人 日本雲南^{れんぎ}聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区山谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPOJYF @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第59号

会
報

発行日 2016年(平成28年)11月15日

50の小学校プロジェクト 支援25校目が開校! 開校式ふれあいの旅が行なわれました



協会が初めて支援した「日本立徳慈濟小学校」(ベトナム国境に近い紅河ハニ族自治州)が開校したのは2001年でした。ここから、雲南省に暮らす25の少数民族に2校ずつ小学校を建設する「50の小学校プロジェクト」がスタートしました。このプロジェクトによって、2009年までに雲南省山間僻地の24の小学校で校舎や生徒宿舍、衛生施設などを建設してきました。20010年以降、雲南省の教育制度改革による小学校の統廃合や東日本大震災の被災小学校への支援活動などによって、プロジェクトは一時的に停滞していましたが、今年9月、プロジェクトの折り返し点もいえる25校目の開校式を迎えました。協会では6年ぶりに「開校式ふれあいの旅」を開催し、日本から同校再建に支援していただいた鈴木良弘氏や協会会員など12名が新校舎完成に沸き返る開校式に参加しました。

「盈江勐勐僑愛小学校」は、雲南省南西部の徳宏州タイ族チンポー族自治州の山奥にあり、リス(傈僳)族の児童約80名が寄宿生活をしています。



2014年5月に起きた2度にわたる大地震で校舎、寄宿舎が深刻な被害を受け、寄宿舎は崩壊、3階建ての教室棟は壁面全面にヒビが入り、倒壊の危険性があるため使用禁止となり、授業が続けられなくなり、校庭に急遽プレハブの教室兼生徒宿舍が設けられましたが、子どもたちは不自由な生活を強いられていました。同年7月、初鹿野理事長ほか協会関係者、現地政府関係者がその過酷な状況を視察し、理事会及び現地政府との協議により支援25校目としての再建支援を決めました。そして、支援決定からは1年半、大切な校舎は耐震補強工事が施され寄宿舎と食堂を新たに建設し、地域の中核校として子どもたちを育てていくことができるよう

になりました。同校の再建をいっしょに心待ちにしていたのは、言うまでもなく子どもたちです。開校式の日、晴れ渡った空の下で子どもたちの笑顔と歓声が溢れていました。きっと、日本のおじさん、おばさんの善意が子どもたちの記憶に引き継がれていくことでしょう。

「50」の目標に向けて、また1校、子どもたちが安心して学び、安心して遊ぶことができる子どもたちの命を守る安全な学校の再建を支援することができました。これまで「50の小学校プロジェクト」に多大なお力添えをいただきましたみなさまに、あらためて感謝を申し上げます。協会は、今後も「50の小学校プロジェクト」を活動の最も大きな柱と位置

づけて、目標達成まで努力を重ねて参りますので、ご支援・ご協力をお願い致します。



支援25校・盈江勐勐僑愛小学校



50の小学校プロジェクト 25校目支援者・鈴木良弘さん 桜の国から文化大恩の国へ

九月一日、三十年来の夢が叶う。その一瞬を見届けよう胸の高鳴りをおさえての今回の旅でした。いよいよ明日は開校式。いろいろと想像する。前もって用意した原稿に繰り返し目を通す。緊張し寝つかない一夜だった。いよいよ開校式の当日。空は曇りあいにくの空模様。雲南省は今は雨季との事。式典だけは、無事、終わってほしいと心の中で祈った。2時間程、車にゆられ現地へ。行く途中、想像は広がる。木の香り漂う校舎、それとも、小さい真っ白な校舎、思いは膨らんだ。しかし、……新しい

校舎という夢は叶わなかったが、児童代表の言葉や校長先生の言葉から、「壊れた校舎での勉強は、雨のたびに雨漏りがし、それはそれは大変でした。」と、また、「壊れかけた校舎に大切な子どもを預けるわけには行かない。」と、そんな話を伺った。そして、「安心して学んだり、生活できることに感謝します。」と、また、「子ども達を立派に育てます。」と、私は、うれしかった。そのように思ってもらえることに感謝したいと思った。ここで学んだ子ども達が、



25校目支援者の鈴木良弘さん

将来、立派に成長されることを期待したい。当地を去る時、私達を見送るのよう虹がかかった。新しい校舎にこだわっていた私の心に、「あなた

の心は分かっています。胸を張って帰ってください。」と私に語りかけているかのようでした。今回の旅を通して文化大恩の国に、少しでも恩返しできたことを何よりもうれしく思います。滞在中、多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

竹の間を吹く風は さわやかに 人民の心 あたかも
中国文明は永いと 言えども この出会いは 朝露の如し
この六日間の出会いのご恩は 大海の如く深く 大空の如く高し
我が身小心に して このご恩に報いる すべてを知らず
只願ひは子孫孫 万代の平安をこそ祈らん

25校目支援者 鈴木良弘

50の小学校プロジェクト 相澤武志さん(協会会員) 感動! 情熱! 愛しています! ~雲南省「ふれあいの旅」~

継続は「力」なり!

赤地に白筆で書かれた横断幕。子供たちを見守る多くの父母。そして生徒60名が民族衣装を身に纏い、屈託のない笑顔と歓喜の声を迎えられ、私は鈴木良弘氏のご支援によって再建され、協会としては25校目となる盈江勐勐僑愛小学校の開校式に参列させていただきました。生徒たちの輝く瞳、鈴木氏の「夢」を

実現する情熱、協会の皆さんの地まぬ努力に触れ、心の底から感激をした瞬間でした。帰途に大きな虹が見送ってくれたのは感動的でした。

私にとって今回の6泊7日の「ふれあいの旅」は、自分自身を見つめ直す旅となりました。同行していただいた皆さんとの交流はもちろんのこと、雲南省の山間部には日本の原風景がひろがっていました。山林は青々と茂り、田畑がひろがり、貧しくも人々の笑顔がありました。科学

の発展は、生活の便利さを飛躍的に向上させましたが、文化や心の豊かさを置き忘れているように感じました。引き続きのお付き合いをお願いします。

日本貨物鉄道労働組合 (JR貨物労組)
中央執行委員長 相澤武志 (協会会員)

協会法人会員のJR貨物労組の相澤武志中央執行委員長(後列右)と吉沢将史関東執行委員長(後列左)



50の小学校プロジェクト

開校式
生徒代表あいさつ

4年生 熊恩書さん(傣族)(左) ▶

今日、ここに生徒を代表してあいさつさせていただきます。とても光栄でうれしな目になりました。日本雲南聯誼協会の皆さんは、山奥に住む貧しい私たちにぬくもりと思いやりを下されました。皆さんから見守られ、私たちは勉強する自信と困難を乗り越える勇気をもらいました。生徒を代表し、皆さんに心から敬意と感謝を表します。

情けは人の為ならず、と言います。皆さんの支援は、私たちの物質的な困難を克服してくれただけでなく、精神的にも励ましてくれました。私たちはもっと勉強し、高い目標に向かって努力



一生懸命手書きの原稿で練習をしました。

を続けました。

私たちは皆さんからの恩をずっと忘れず、理想を掲げて前進し、優秀な成績で皆さんに恩返しをしたいと思っています。本当にありがとうございました。



50の小学校プロジェクト

開校式 ふれあいの旅

日雲教育交流拠点 金康園小学校 訪問
昆明市の日雲友好協力関係を結びました

▲金康園小学校にて民族文化大演を見学



小学生の見事な書に驚きをした



◀金康園小学校にて国際教育交流について意見交換



李雪菲校長(右) ▶

「ふれあいの旅」一行は9月6日午前、昆明市海外聯誼会の常務副主席に温かく迎えていただき少数民族のテーマパーク、雲南民族村を訪ねた。午後は日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラムの学生15名と合流し、「花の城」(昆明市盤龍区)を訪れ、龍博河区長の案内で雲南の珍しい植物を見学しました。「花の城」は1999年の花博跡地に建てられた360度体験型の温室と宿泊施設、コンベンションセンターなどの複合施設です。

また、金康園小学校(昆明市盤龍区、教師83名、児童1,754名)も訪問。「開校して16年の新しい小学校だが、書道、音楽、踊りなど児童が持つ能力を引き出す教育を目指し、海外の小学校とも交流するなど雲南省のモデル小学校となっている」と説明がありました。一行は児童

の踊りの歓迎を受け、李雪菲校長の案内で授業を参観。協会が、日本の小学校と同校の国際交流のための窓口となる提携を結びました。夜は民俗博物館(昆明市官渡区)を訪れ、同グループの譚忠文館長のコレクションを収蔵した民俗博物館を見学。その後、協力して日雲文化交流を促進することで合意しました。今回、雲南で協力いただいた全ての皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

ありがとうございました



譚忠文館長

主催：認定NPO法人日本雲南聯誼協会

ご協力(順不同、敬称略)：雲南省僑務弁公室、徳宏タイ族チンポー族自治州華僑弁公室、盈江県僑務弁公室、瑞麗市僑務弁公室、昆明市議会、雲南海外聯誼会、昆明市政協、昆明市盤龍区政協、雲南民族村、花の城、金康園小学校、雲南人家、日本航空株式会社、頼哲、易磊、平田栄一 皆様のご協力に心より感謝申し上げます

50の小学校プロジェクト

都筑信 協会顧問

雲南訪問を終えて

晴れた日の雲南の空は果てなく青く、国境の山並に湧き立つ白雲と美しく調和して、北京や上海の鈍色の大気とは全く異なるものでした。念願であった雲南訪問をやっと果たして得た感慨です。ただ街並に漂う独特の匂いはこの国を実感させてくれました。

今回の訪問は「25の小さな夢基金」で私達夫妻が最初に支援した女子生徒、雷会蘭さんに会うこと。雲南師範大学を経て、今秋、郷里の小学校で教職に就くという彼女を激励することが目的でした。

自分が自己紹介で「将来の夢は大学で学び、希望ある前途を得たい。そして家族や故郷を豊かにしたい」と語っていたが、今、どの様な思いでいるのか語り合いたかったからです。開校式を行う小学校に伺う途上の盈江で社会人としての一行を印そうしている雷さんに会う。手紙の交流の中で想像していた以上に立派に成



▲都筑信顧問(左)と雷会蘭さん(右)

人した姿に接し、支援への謝礼と家族からの謝意を聞き思わず目頭が熱くなりました。

これからは後に続く地元の子供達に志を持って学べば未来への夢は果たせるという励ましを示していくことになることと確信。ささやかな私達の協力が未来を担い、そして揺るがぬ人材を育てたのではないかと思います。

その後訪ねた開校式を迎えた小学校と昆明市内の大規模な小学校の教育環境のギャップには考えさせられるものがありました。夫々の環境の中で学ぶ子供達の目の輝きには、国境の山並を越えて湧き立つ雲の様に果てしない将来への夢が、実感できた旅でした。

都筑信(協会顧問)

アジア未来への人材育成プロジェクト

インターンシッププログラム in 雲南支部

学生が長期の休みなどを利用し、職場体験をするインターンシップ。現在、日本の新卒採用企業の6割が実施し、就職を希望する学生の6割が参加しているそうです。協会は「アジア未来への人材育成プロジェ

クト」の一環として2014年にインターンシップを始め、これまでに日雲で100名近くの学生が参加しました。今夏は雲南師範大学日語科の13名が雲南支部でインターンシップに参加しました。二人の感想を紹介しま



雲南支部事務所



「ちいさな先生」の日本語授業・金康園小学校

参加していい経験になりました! 李姣さん

協会がインターンシップを経験し、とてもいい勉強になりました。毎日、朝9時から午後5時半まで事務所ですと文書を作成したり、「25の小さな夢基金」の手紙を翻訳したりで、疲れましたが、多くの知識を吸収することができ、NPOの理念を理解することができました。インターンシップ中は毎日新しい仕事があり、毎日新しい目標と挑戦があり、いい経験となりました。大学を卒業して社会に出るとたくさんの困難に遭遇し、自分の心の変化も大きいと思いますが、今回のインターンシップを通して雲南支部のスタッフの皆さんから学んだことを思い出し、頑張りたいと思います。



李姣 調べるのが得意です

とにかく感動的でした! 張雪雯さん

9月18日にインターンシップが始まり、その時の気持ちはどのように表現したらよいかわかりませんが、とにかく非常に感動的でした。インターンシップの2週間、いろいろなことをしました。例えば、NPOについて学んだり、日本へ旅行企画を考えたり、事務所を整理したり、「25の小さな夢基金」生徒から支援者への手紙を翻訳したりしました。

その中で、特に深く印象に残ったのは生徒たちから支援者への手紙です。彼女たちの手紙はとても純粋で感謝の気持ちがあふれていました。このような心と心の交流をもっと多くの中国人に知ってもらいたいと思いました。今回、インターンシップを経験し、中日友好のために頑張りたいと強く思いました。 張雪雯



金康園小学校でボランティア日本語授業 張雪雯さん(一番右)

雲南支部パソコンで寄付
ありがとうございました

雲南支部のパソコンが古くなり、今年7月の協会メール通信で寄付を募ったところ、4台のパソコンが届きました。



ご寄付いただいたパソコン

◎ご寄付いただいた方(順不同、敬称略)

新田真弓(協会会員、「25の小さな夢基金」サポーター)

近藤聡一(日本雲南聯誼協会古屋支部長、「25の小さな夢基金」サポーター)

上原正夫(協会会員、東京本部常駐ボランティア)

作業がはかどります

雲南支部に新しいパソコンが届き、これからスムーズに作業できます。ありがとうございました! 協会の活動は皆さんの善意に支えられています。これからもご協力、よろしくおねがいします。



「25の小さな夢基金」2016年度サポーター募集中

昆明市女子中学春蕾クラスに在籍する少数民族の優秀な女子高生を1対1でサポートする「25の小さな夢基金」。今年度、新たに96名の生徒が入学しました。現在、3年間支援していただけるサポーターを募集しています。



◀「25の小さな夢基金」で支援しているミャオ族の生徒

・サポーターになると生徒との文通を通して心温まる交流ができます。会報誌「彩雲の南」を年4回お届けします。

・支援金額と使途

支援金額	生徒1名3万円/年
使途	生徒の生活援助費 50%
	基金運営費 50%

※「25の小さな夢基金」への支援金は「特定寄付金」扱いとなり寄付金控除が受けられます。確定申告を行うことで支援金の最大約40%の税額が戻ってきます。詳しくは協会事務局までお問合せください。

◎お問合せ・サポーター申し込み

協会ホームページ <http://www.jyfa.org> ▶ 教育支援 ▶ 25の小さな夢基金

日本雲南聯誼協会東京本部事務局 TEL.03-5206-5260(平日10時~18時)

✉ yunnan@jyfa.org 協会FB <https://www.facebook.com/25foundation/>

連載

こんにちはCSR

～協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ～

第15回◎ハウス食品グループ 本社株式会社

会社概要 ■「食を通じて、家庭の幸せに役立つ 食を通じて人とつながり、笑顔ある暮らしを共にするグッドパートナーをめざします」というグループ理念のもと、加工食品、調理済み食品、香辛料、健康食品、飲料、スナック等を製造。カレー、シチューではシェアトップクラス。1981年より海外事業を開始し、現在はアメリカ、中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム、インドネシア等で「世界の家庭の幸せに役立つ」事業を展開。社会貢献活動として農業体験やカレー作り等の食育と環境教育のための活動を行っている。

本社所在地
東京本社 〒102-8560 東京都千代田区紀尾井町6番3号
TEL: 03-3264-1231 (代)
大阪本社 〒577-8520 大阪府東大阪市御堂町
1丁目5番7号 TEL: 06-6788-1231 (代)
HP: <https://housefoods-group.com>

※CSR=Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任) : 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

今回はハウス食品グループ本社株式会社(以下、ハウス食品)をお訪ねして、国際事業推進部長の渡辺昭生氏とCSR部次長、三橋康市氏にお話を伺いました。

ハウス食品は、1913(大正2)年に漢方薬の原料を扱う「浦上商店」として創業。1920年頃からカレー粉の研究を始め、1926(大正15)年に日本初の粉末即席カレー「ハウスカレー」を発売。当時としてはモダンなデザインのパッケージに、西洋風家屋をシルエットで模したロゴマークが印刷されていま



～食と農と環境の体験教室

した。「日本中の家庭が幸福であり、そこにはいつも温かい家庭の味 ハウスがある」という企業の志を表していました。「house」ブランドには「家庭を意味するhomeが既に商標登録されていて使えないということで、houseにした」という裏話があるそうです。

そして、1960(昭和35)年に社名を「ハウス食品工業」と改称。1963年、あのリンゴとハチミツ、とろ～りとけてる……♪で日本中の子どもたちを虜にした「ハウス・パーモントカレー」を発売。一躍カレーライスを「お母さんの味」の筆頭に押し上げたことは誰もが知るところです。

ハウス食品は社会貢献活動にも早い時期から取り組んでいます。もっとも近いところでは、東日本大震災や熊本地震災害に際して、震災直後から被災された方々に同社の商品を食料として提供し、グループ企業の社員がボランティアとして被災地復興活動に参加しています。また、中国の「親子カレー教室」などを通して、豊かな家庭、豊かな社会をつくる活動に力を入れています。「押しついで

大阪本社屋



はなく、啓発を大切にしています」と渡辺氏。「食を通じて人とつながり、笑顔ある暮らしを共にするグッドパートナーをめざします」というハウス食品グループの理念が根底にあるからです。

お話を伺っていて、中国で製造販売されている「パーモントカレー」の中国語名「百夢多咖喱」を思い出しました。「パーモント」の音に似せた当て字だとばかり思っていたが、この5文字にはハウス食品の企業理念がしっかりと練り込められていることに感心しました。「夢がいっぱい詰まったカレー」は「温かい家庭の味」となって、中国やアジアの子どもたちに新しい食文化を届けています。

第12回 雲南省少数民族貧困児童教育支援チャリティーゴルフコンペ

ゴルフを通じて
社会貢献



雲南美女と記念撮影

気になる成績は…



▼四国・四万十市から2年連続参加の
宮本博行さん(協会会員、中央)



参加者全員に景品を選んで
持って帰ってもらいました



チャリティーゴルフ
コンペ名物 18番
チャリティー
ショートホール

ワンオンできなかった方
にはご寄付をいただきました



来年のチャリティー
ゴルフコンペは……
2017年10月21日(土) に決定!
会場は来年も大月カントリークラブです
お友達、ご家族お誘いあわせのうえ、是非ご参加ください!

グローバルフェスタ Japan 2016 テーマ: for the First Step ～新しい目標に向かって～

10月6日の「国際協力の日」にあわせ、毎年10月に開催される日本最大級の国際協力イベント・グローバルフェスタJAPAN。今年は1日と2日、お台場(東京都江東区)で開かれ、政府機関、NPOなど269団体が参加、来場者は2日間で10万人(主催者発表)を越えました。協会は12年連続で出展、日本に留学中の雲南の学生や「日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」



に参加した学生などが、ボランティアとして協会ブースを盛り上げてくれました。

雲南出身で、グローバルフェスタJAPANに初めてボランティアとして参加した程恬さんの感想を紹介しました。



今年は学生ボランティアが大活躍
程恬さん(右から4人目)

今回、ボランティアとして参加して強烈なインパクトがありました。まず、多くの人と会えたことです。そして協会ボランティアの皆さんの情熱に感動しました。協会ブースを訪れた人に対して寄付をするしないに関わらず、大きな声でお礼を言っていました。その声から情熱と親しみを感じられました。日本大学生ボランティアの皆さんは流暢な中国語で一生懸命に協会の活動や雲南のことについて説明していました。今回のボランティア活動を通して多くの体験をしました。その体験を通して、今後の人生にも役立つことがあると思います。皆さん、ありがとうございました。

程恬



ベテランボランティアの皆さんも大粒の汗をかきながら
協会活動をアピール



ボランティア協力(順不同、敬称略):
平本美智明、森保次郎、金澤孝、宋慶平、富樫穂穂、岩沙圭、小牧恵介、宗野航来、市来亮、瀧澤大樹、川口邦夫、下津祐子、押野佳子、張慧、程恬、張強、李柯楠、上原正史、土田淳志

イベント
報告初鹿野恵蘭理事長 カンボジア訪問 “地球の大家族”
サンライズジャパンホスピタル プノンペン開院式出席
NPO21世紀のカンボジアを支援する会 視察

カンボジアの首都・プノンペンに今年9月、日本の先進医療技術を提供し、救命救急センターも備えた「サンライズジャパンホスピタル プノンペン」が落成しました。脳神経外科医でNGO日本医療開発機構(JMDO)の理事長を務める北原茂実協会理事の長年の夢が実現したもので、9月20日の開院式にはフン・セン首相をはじめ、日本・カンボジアから2,000名以上が出席。同NGOの理事を務める初鹿野恵蘭理事長も招待され、開院式に出席しました。理事長はその後、NPO「21世紀のカンボジアを支援する会」の理事長でもある根岸恒次協会顧問の案内で、同会が運営する児童養護施設「夢ホーム」、里親制度で支援する子どもの自宅、建設した小学校等を視察しました。



サンライズジャパンホスピタル プノンペンの完成、おめでとうございます。北原先生の長年の夢がようやく叶い、とても素晴らしい病院が完成したことに感動しました。同院がカンボジアの医療水準向上に貢献することを強く願います。また、根岸顧問のご案内でカンボジア貧困児童の自宅や小学校を訪問し、厳しい生活環境を目の当たりにして心がとても痛みました。しかし、そんな中でも子どもたちの目は生き生きと輝いていて、どの国の子どもも同じようにかわいいと感じました。力があれば雲南だけではなく“地球の大家族”としてアジアの子どもたちも助けたい気持ちでいっぱいになりました。

初鹿野恵蘭

アジア未来への人材育成プロジェクト
第4回 日本雲南大学生交流
グローバルリーダー育成プログラム
雲南開催報告

2014年に始まった「日本雲南大学生交流スタディーツアー」が今夏、「日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」と名称を変え、さらに充実した内容になって9月1日～11日の11日間、雲南で実施されました。日本人学生6名と雲南学生9名が、少数民族の村で貧困・地域格差等について学び、共同で問題改善プランを考えました。



▲協会支援19校目・老木壩小学校訪問

8月6日(出) 雲南学生とwechat(微信)で中継し事前学習会を行いました
子どもたちに手作りの竹馬を作りました



▲環境・衛生チームによる手洗い指導

2016年度 第2回理事会及び
役員・顧問会 開催報告

今年度2回目となる理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日 時：8月5日(金)

理事会 15:30～17:00 役員・顧問会 17:00～18:00

場 所：株式会社技術評論社1階 101会議室

司会進行：滝澤崇 理事 参加人数：14名(事務局含む)

【議案】株式会社さんざんとの事業提携について、魯甸県地震孤児支援について、雲南支部人事について、新顧問について

【報告事項】イベント・プロジェクト終了報告、理事長出張報告、熊本地震支援報告等

NHKワールド ラジオ日本
初鹿野恵蘭理事長出演

初鹿野恵蘭理事長がゲスト出演する日本放送協会(NHK)の海外向け放送「NHKワールド「ラジオ日本」」の収録が9月28日(水)、NHK放送センター(東京都渋谷区)で行われました。1996年の麗江大地震をきっかけに始めた初鹿野理事長の募金活動から協会の設立、「50の小学校プロジェクト」や「25の小さな夢基金」など協会の活動について説明し、サポーターや支援している子どもへの電話インタビューの音声も収録されました。



収録中 初鹿野恵蘭理事長(右)

中華人民共和国建国67周年
祝賀レセプション 初鹿野恵蘭理事長 出席

中華人民共和国建国記念日「國慶節」(10月1日)を祝う同大使館主催の祝賀レセプションが9月29日、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)で開かれ、政財界、教育、文化など各界で日中友好に貢献する約2,000名が出席しました。程永華大使は「中日両国はアジアおよび世界の平和と発展に重要な役割を担っている。来年は中日国交正常化45周年、再来年は中日平和友好条約締結40周年を迎え、相互信頼を推進し、両国国民に幸せをもたらしたい」とあいさつしました。



初鹿野恵蘭理事長(左)と王軍総領事(右)

江戸川総合人生大学 第13期生入学式
初鹿野恵蘭理事長 出席

東京都江戸川区が開設する「江戸川総合人生大学」の第13期生の入学式が篠崎文化プラザ(東京都江戸川区)で開かれ、江戸川区長や講師、卒業生とともに2012年から講師を務める初鹿野恵蘭理事長と林則幸理事長が出席しました。新入生89名の代表が「歴史と伝統ある江戸川総合人生大学の学生として誇りを持って勉学に励み、実りある学生生活を送ります」と挨拶しました。



さいたま市 国際ふれあいフェア2016

さいたま市とさいたま観光国際協会が主催する「国際ふれあいフェア」が10月9日(日)、JR浦和駅前の駅前市民広場で開かれ、今年も大宮支部が出展しました。ボランティアの皆さんが集めた朝9時ごろは雨あしが強く、荷物の運搬や雨よけ作業が大変でしたが、ベテランボランティアがあってという間にブースを立ち上げました。雨が止んだ11時頃からは人出も増え、今年入会した松本馨・裕子ご夫妻をはじめ、色鮮やかな民族衣装を身にまとったボランティアの呼び込みおかげで、大勢の人が協会ブースに立ち寄ってくださいました。5時間の活動でしたが、久しぶりに皆さんと顔を合わせ、楽しく交流できました。ボランティアの皆さん、大変お疲れ様でした。



毎年、民族衣装 試着が大人気です

大宮支部ブース

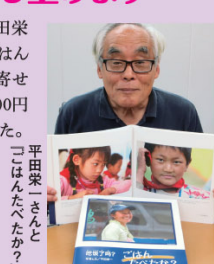
ボランティア協力(順不同、敬称略) 鳥羽清広、川口邦夫、市川久美子、高橋福子、松本馨、松本裕子、佐藤正典、横山晋、小俣小輝、金子樹樹、松本ユバ、寺内明子

二報告

『ごはんたべたか?』
寄付のお礼とご報告平田栄一さんと皆さんに
心よりお礼を申し上げます

当誌第58号で紹介した平田栄一さん(協会会員)の著書『ごはんたべたか?』へ皆さんからお寄せいただいた寄付の総額は83,700円(2016年10月末まで)になりました。

平田さんのご厚意により、購入いただいた代金はすべて協会へ寄付され、雲南少数民族児童のために使わせていただきます。



平田栄一さんと『ごはんたべたか?』

イベント
情報

第37回 八王子いちようまつり

日時：11月19日(土)、20日(日)

協会出展場所：並木町郵便局横(東京都八王子市)

2016年度 第3回理事会及び
役員・顧問会

日時：11月29日(火)

理事会 15:30～、役員・顧問会 17:00～

場所：株式会社技術評論社 会議室
(東京都新宿区)

江戸川総合人生大学特別講義
テーマ「日本に住む中国の人々の活動について」

講師：初鹿野恵蘭理事長

期間：12月13日(火)

場所：篠崎文化プラザ(東京都江戸川区)

2016 チャリティー忘年会
日本と雲南少数民族友好のタベ

日時：12月17日(土) 17:00～19:00

場所：ピヤステーション恵比寿
(東京都渋谷区恵比寿ガーデンプレイス内)

ワン・ワールドフェスティバル(予定)

日時：2017年2月4日(土)、5日(日)

場所：カンテレ扇町スクエア、北区民センター、
扇町公園(大阪府大阪市)

2016年度 第4回理事会及び
役員・顧問会

日時：2017年2月17日(金)

理事会 15:30～、役員・顧問会 17:00～

場所：株式会社技術評論社 会議室
(東京都新宿区)

お知らせ

2016チャリティー忘年会
日本と雲南少数民族友好のタベ

雲南省や少数民族に興味がある方々が親睦を深める恒例のチャリティー忘年会を今年も開催します。毎年100名以上が参加し、雲南少数民族の踊りを踊ったり、お楽しみ抽選会で素敵な景品をゲットしたりと、今年も楽しい企画満載です。どなたでも参加できますので、ご家族、ご友人とお誘いあわせの上、お気軽にご参加ください！皆さんのご参加を心よりお待ちしております！

日時：2016年12月17日(土)

17:00～19:00

場所：ピヤステーション恵比寿
(東京都渋谷区恵比寿 恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口徒歩5分)

会費：一般7,000円、学生5,500円

※会費のうち1,000円を雲南少数民族教育支援活動へのご寄付とさせていただきます。

【お問い合わせ】

日本雲南聯誼協会東京本部事務局

TEL.03-5206-5260 FAX.03-5206-5261

✉ yunnan@jyfa.org

編集後記

とあるきっかけで佐賀空港について調べたら、春秋航空の上海～佐賀便のチケットはなんと二千五百円、成田～佐賀も三千五百二十円となんとリーズナブル！中国と日本はずいぶん近づいていました。一方、「25の小さな夢基金」で支援を待つ高校生には、ひとり親家庭の子や両親とも亡くした孤児もいます。こんなに近くあった中国に助けを待ち望んでいる子どもたちがいる、それを知ってもらうことも協会の大きな使命だと再認識しました。

(編集長・木本一彰)